

大井町線跨道橋（1級国道1号線）竣工

1級国道1号線と平面交又せる東急大井町線の立体交又工事は、建設省直轄工事として、関東地建京浜工事事務所において昭和29年7月に着工し、去る7月に竣工した。これによつて東京一横浜間唯一の隘路となつていた平面交又も全部立体化し、交通の便に寄与するところが大きい。この付近の1日の自動車交通量（昭和32年7月6日（土）12時間観測）は上り下り合計30000台を算し、ピーク時には2800台/hであり、電車は通勤時上下とも5分間隔、普通時は8分間隔運転であつて、1回30秒遮断で、1時間12分および7分30秒の遮断時間をおいていたものである。

立体交又成つた東急大井町線



場 所：東京都品川区中延町
 工事区間：総延長1020m（内高架部分488m、盛土部分532m）
 橋梁幅員：8m（複線軌道）
 橋 種：鋼板桁ゲルバー（橋長50.3m、3径間）3径間鉄筋コンクリート連続ラーメン（支間6m）
 橋 格：60.4t 電車3両連続、軸重15.1t
 中延停車場：サイドシステム ホーム（延長66m、ホーム幅4.5m）
 請負業者：盛土高架部分 竹下組、川田工業；鋼桁部分 桜田機械工業
 総工費：191589954円 鉄 材：579t、鋼材201t

第1回河川審議会開催

建設省では設置法の一部改正を行い付属機関として河川審議会を設置し、第1回審議会を10月2日開催した。この審議会は建設大臣の諮問に応じて河川および海岸に関する重要事項で建設省の所管にかかるものを調査審議し、またはこれらの事項について建設大臣に建議することになっている。委員は学識経験者並びに関係行政機関および地方公共団体の職員よりなり別掲の各氏が任命された。第1回審議会では会長互選の結果足立 正氏（日本商工会議所会頭）が会長に選出され、河川審議会議事運営規則の審議並びに河川行政および治水事業の概要説明の聴取審議が行われた。委員名を次に示す。

安 芸 敏 赤 大 雄 足 立 正 新 居 善太郎	荒 木 茂久二 石 破 二 雄 植 村 甲午郎 上 野 幸七	内 山 岩太郎 内 海 清 温 塩 見 友之助 鈴 木 雅次	鈴 木 俊 一 田 中 二 郎 高 田 富 与 鈴 竹 中 治	辰 馬 鏡 蔵 田 辺 繁 郎 土 屋 清 中 久次夫	中 田 政 美 田 本 学 荷 三 浦 辰 藤 原 節 夫	山 木 力 藏 米 田 正 文
---------------------------	--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-----------------

桂 沢 ダ ム 完 成

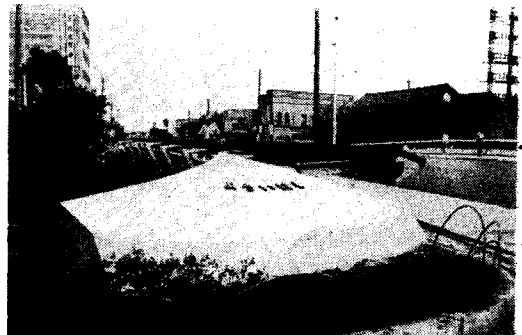
石狩川総合開発事業のうち、その支流幾春別川、芦別川を対象とする地区における開発を達成するため、電源開発KKによつて多目的ダムとして、幾春別川桂沢地点に昭和26年着工以来着々と建設の進められていた桂沢ダムは、芦別取水ダム（芦別川を流域変更して桂沢貯水池に入れるためのもの）、桂沢、熊追の両発電所とともに、このほどようやく完成し、去る9月28日現地において竣工式が挙行された。桂沢ダムは高さ63.6m、堤頂長334.25m、堤体コンクリート量35万m³、これにより満水位標高187.0m、有効貯水量81800000m³の桂沢貯水池が出現し、幾春別川の春秋の洪水を調節して下流のはんらんを防ぎ、かんがい期間中は美唄原野の農業用水を、また渇水期の発電用水、鉱工業用水、さらに岩見沢、美唄、三笠の三市に対する上水道用水を確保することができる。またこの水により発電する桂沢、熊追両発電所の出力（合計）は最大19850kW、年間85835000kWhの電力を発生する。これらの発電所は主としてピーク用として運転される。また洪水調節のためにはダムに国直轄の管理事務所が設けられており、上流山地帯に無線遠隔ロボット雨量局2局、下流に同水位局1局を持ち、さらに札幌、桂沢間には150メガサイクルの無線電話を持つている。越流ゲート、農業用水取水用の調整ゲート、制水ゲート、放水管ゲート（ハウエルバンガールブ）も管理所から遠隔操作で運転できる。

東 京 都 鋳 橋 竣 工

東京都単独事業として、昭和30年8月着工した鋳橋が2カ年の日数を経て、去る9月完成した。本橋は中央区日本橋兜町・小網町入会、日本橋川に架設されたものである。高欄はとくにデザインに工夫をこらし（口絵参照）、黒ミカゲ石みがき仕上げをなし、橋灯はパンザーマスト投光器を使用している。事業概要は次のとおりである。

橋種：3径間ゲルバー式合成桁、橋長：56.7m、幅員：19.0m（車道13.0m、歩道3.0m）、橋格：1等橋、下部：橋台、旧橋台補強使用、橋脚、鉄筋コンクリート杭打基礎、使用鋼材：189.2t、工事費：5911万円、設計：東京都建設局橋梁課、鋼桁製作架設工請負：KK宮地鉄工所、上下部工請負：新田建設KK

新装成つた鋳橋（高欄に特長がある）

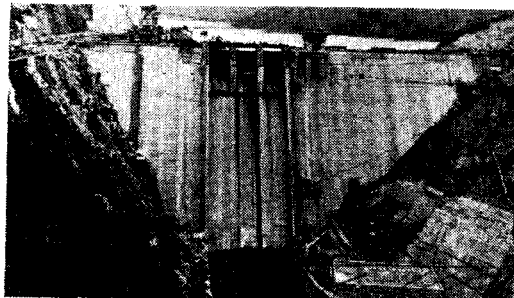


井川ホロー グラビティー ダム竣工

昭和 29 年 9 月より工事中の大井川の井川発電所（中部電力 KK）が、わが国最初の中空重力式ダムとともに 9 月 2 日運転を開始した（口絵参照）。

ダム 高: 103.6 m	堤 頂 長: 243 m
堤 体 積: 437 400 m ³	流 域 面 積: 459.3 km ²
洪水面積: 4 219 km ²	総貯水容量: 150 × 10 ⁶ m ³
利用水深: 45 m	有効貯水容量: 125 × 10 ⁶ m ³
水 車: 33 000 kW × 2 台	発 電 機: 34 000 kVA × 2 台
最大出力: 62 000 kW	最大使用水量: 80 m ³ /s
最大有効落差: 92.7 m	建 設 費: 約 163 億円

井川ホロー グラビティー ダム



海外治水・水利開発連絡協議会発足

エカフエ地域その他海外における治水および水利開発に関する事項について、関係行政機関および学識経験者の連絡協議を緊密にして、海外の治水および水利開発に対するわが国の協力態勢を確立することを目的とし、外務、農林、通産、建設の各省および経済企画庁、科学技術庁、気象庁等の関係委員をもつて組織する海外治水・水利開発連絡協議会は昭和 32 年 9 月 6 日第 1 回委員会を開催した。

会長に科学技術庁 安芸審議官、副会長に建設省 米田技監をそれぞれ互選し、庶務は建設省河川局において処理することとして正式に発足した。

万国地震工学会議の開催について

昨年 6 月米国で万国地震工学会議（World Conference on Earthquake Engineering）が開かれ、10 数カ国より代表が参集して学術、技術の交流に多大の効果をあげたが、日本学術会議では第 2 回万国地震工学会議を同会議の主催で東京に開催すべく準備を進めることに 7 月 25 日の運営審議会で決定した。

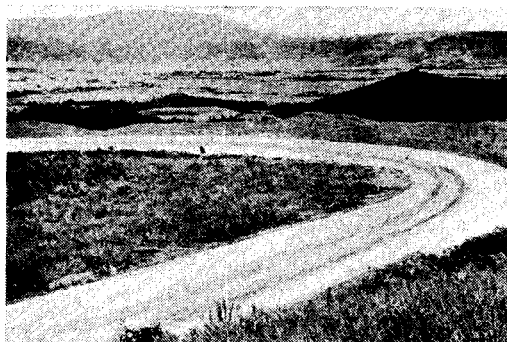
土木学会は建築学会とともに準備委員会に多数の会員を送り、積極的にこれを支援協力している。会議内容は次のように予定されている。

- 会 議 名: 第 2 回万国地震工学会議
- 専 門 分 野: 土木工学, 建築工学, 応用地震学
- 規模および性格: 各国の地震情報の交換, 応用地震学, 耐震工学の研究の発表, 討論により今後の耐震工学の進歩に資する。参加予定国: 日本および欧米, 中東, 東南アジア諸国とし参加人員は邦人 300 名, 外人 50 名を予定する。
- 会 議 の 主 題: (1) 地震性状, (2) 地震と地盤性状, (3) 地震と構造物, (4) 地震被害報告, (5) 耐震設計
- 期 間: 1960 年 8 月 30 日より 9 月 4 日まで 6 日間

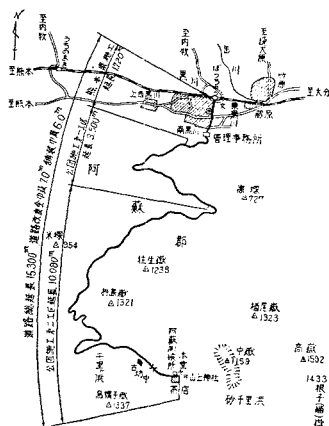
阿蘇登山道路開通

かねて改良工事を急いでいた九州阿蘇山の有料登山道路が去る 10 月 6 日開通した。本道路は 27 年道路整備特別措置法にもとずき、有料道路として熊本県で着工、31 年 8 月日本道路公団に引きつがれ施工されたものである。本工事は路盤が火山灰質であり、降雨量年間 3 000 mm に達する多雨地区のため土質の入れかえ、排水処理の完備等を行い、冬期の温度低下と雨季をむかえて作業は非常な困難をきわめた。

阿蘇登山道路

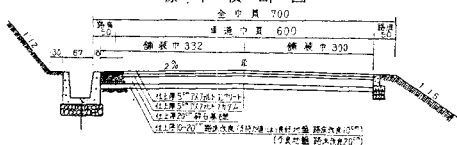


阿蘇登山道路位置図



延 長: 15 300 m, 全幅員 7.0 m, 車道幅員: 6.0 m, 舗装幅員 6.0 m
 路 面: コンクリート舗装: 厚さ 20 cm, ニュービット舗装: 厚さ 6 cm, ブラックベース (アスファルトマカダム) 厚さ 5 cm, 粗粒式アスファルトコンクリート舗装: 厚さ 5 cm
 勾 配: 平均勾配 4%, 最急勾配 10%
 屈 曲: 最小半径 17 m
 主要資材: セメント 2 200 t, 鉄筋 13.3 t, アスファルト 1 500 t, 砂利, 砂, 砕石 66 000 m³
 事業費: 246 000 000 円
 着 工: 29 年 3 月 20 日, 竣工 32 年 9 月 25 日

標準横断面図





茨城県六号国道
原子力道路



ポゾリス

セメント分散剤

曲げ強度の増加

ポゾリス・コンクリートによる道路舗装は、最少の単位水量で最大の曲げ強度が得られ、耐久性が高められます。

製造元

日本曹達株式会社

東京都港区赤坂表町四丁目一番地 TEL赤坂(48)5351~9

発売元

日曹商事株式会社

本社	東京都中央区日本橋三丁目五番地	TEL日本橋(24)7191~5
営業所	大阪市東区北浜二丁目九〇番地	TEL北浜(37)7063~6
出張所	名古屋市中区御幸本町通三丁目六	TEL本局(23)1585
出張所	札幌市北十条東一丁目	TEL札幌(3)0625
出張所	福岡市天神町八番地(西日本ビル)	TEL中(4)0961